

常磐大学 人間科学部教育学科 成績評価基準・評価指標（ルーブリック）

「ゼミナールⅠ」

評定	S	A	B	C	D
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点
GP	4	3	2	1	0

到達目標	評価項目	評価基準				
		授業内容の習熟を超えたレベルに達成している（S）	授業内容の習熟を達成している（A）	授業内容の習熟と到達目標の間にあるレベルを達成している（B）	到達目標を達成している（C）	到達目標を達成できていない（D）
（1）学術研究における新規性・独自性および客観性・正確性の意味を説明することができる。	学術研究への理解度	学術研究には社会的意義が不可欠であることを十分に理解し、その社会的意義を前提として学術研究に求められる新規性・独自性および客観性・正確性の意味を漏れなく説明することができる。	学術研究には社会的意義が不可欠であることを理解し、その社会的意義を前提として学術研究に求められる新規性・独自性および客観性・正確性の意味をおおむね説明することができる。	学術研究には社会的意義が不可欠であることへの理解は不十分であるが、学術研究に求められる新規性・独自性および客観性・正確性の意味はおおむね説明することができる。	学術研究には社会的意義が不可欠であることへの理解が不十分であるが、学術研究に求められる新規性・独自性および客観性・正確性の説明も不十分であるがその必要性を認識することはできている。	学術研究には社会的意義が不可欠であることおよび学術研究に求められる新規性・独自性および客観性・正確性の必要性を理解していない。
	研究倫理の認識度	学術研究の社会的意義を保證する研究倫理について、漏れなく認識することができる。	学術研究の社会的意義を保證する研究倫理について、おおむね認識することができる。	学術研究の社会的意義を保證する研究倫理について、最低限認識することができる。	学術研究の社会的意義を保證する研究倫理についての認識は不十分であるが、研究倫理の必要性を自覚することはできている。	学術研究の社会的意義を保證する研究倫理の必要性を認識していない。
（2）専門書や研究論文を論理的かつ批判的に読み解くことができる。	論理的思考力	検討文献を過不足なく適切に要約した上でその論点を抽出し、それぞれの論点に対する自身の考察を論理的にかつ建設的な批判を組み込んで構成し説明することができる。	若干の過不足はあるが検討文献をおおむね適切に要約した上でその論点を抽出し、一部の論点には対応することができていないが大半の論点に対する自身の考察を論理的にかつ建設的な批判を組み込んで構成し説明することができる。	検討文献の要約に稚拙さは見受けられるが論点はおおむね抽出することができており、一部の論点には対応することができておらず考察の論理性や建設的な批判の不十分さは見受けられるが大半の論点に対する自身の考察を構成し説明することができる。	検討文献の要約に稚拙さが目立ち、論点の抽出も不十分であるが、論点を抽出しようとする意図および自身の考察を構成し説明しようとする意図は見受けられる。	検討文献の論点を抽出しようとする意図および自身の考察を構成し説明しようとする意図が見受けられない。
（3）授業運営へ主体的に関与し、学生同士が学び合い支え合う環境づくりに携わることができる。	主体性	ゼミ生の議論・相互批判により研究を高め合う志向のもとに、積極的・主体的に発言し、毎回の確かつ建設的な質疑応答を行っている。	ゼミ生の発表を傾聴した上で主体的に発言し、おおむね的確な質問・回答を行っている。	ゼミ生の発表を傾聴し、指導教員に促されて発言し、消極的ながらも質疑応答を行っている。	発言は乏しいが、受けた質問に対してはおおむね回答することができる。	演習の意味を理解しておらず、主体性がなく、質疑応答を行おうとする姿勢が見られない。
	コミュニケーション力	他のゼミ生の意見・立場を尊重し、自分の役割も意識しながら、進んで交流・協力することで良好な人間関係を形成し、ゼミナールの円滑な運営および活動の活性化に著しく貢献している。	他のゼミ生の意見・立場を尊重しながら交流を深め、協力的な態度を維持し、ゼミナールの円滑な運営および活動の活性化に貢献している。	ゼミ生同士で交流し、必要な場面では協力することができ、ゼミナールの円滑な運営および活動の活性化に貢献しようとしている。	ゼミ生同士の交流・協力の必要性は一応理解し、ゼミナールの運営・諸活動に最低限参加している。	他のゼミ生との交流・協力の必要性を理解しておらず、ゼミナールの運営および活動にも参加していない。

常磐大学 人間科学部教育学科 成績評価基準・評価指標（ルーブリック）

「ゼミナールⅡ」

評定	S	A	B	C	D
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点
GP	4	3	2	1	0

到達目標	評価項目	評価基準				
		授業内容の習熟を超えたレベルに達成している（S）	授業内容の習熟を達成している（A）	授業内容の習熟と到達目標の間にあるレベルを達成している（B）	到達目標を達成している（C）	到達目標を達成できていない（D）
（1）卒業論文の研究課題を設定し、その社会的意義および新規性・独自性を説明することができる。	課題発見・設定力	研究課題となりうる事柄を主体的かつ積極的に特定し、その研究課題に取り組む社会的意義と研究課題の中心となる問いの新規性・独自性を明確に打ち出すことができる。	研究課題となりうる事柄をおおむね主体的かつ積極的に特定し、その研究課題に取り組む社会的意義と研究課題の中心となる問いの新規性・独自性をおおむね明確に打ち出すことができる。	研究課題となりうる事柄を指導教員等に依存しつつ消極的ながらも特定し、その研究課題に取り組む社会的意義と研究課題の中心となる問いの新規性・独自性を不明確な点も目立ちつつ打ち出すことができる。	研究課題となりうる事柄を特定することができてはいないがイメージすることはできており、その研究課題に取り組む社会的意義と研究課題の中心となる問いの新規性・独自性もおおむね不明確ではあるがそれらを打ち出そうとする意図は見受けられる。	研究課題となりうる事柄を特定しようとする意図およびその研究課題に取り組む社会的意義と研究課題の中心となる問いの新規性・独自性への配慮が見受けられない。
（2）研究課題に取り組むための先行研究を収集・整理し、主要な先行研究を特定してその成果と課題を説明することができる。	先行研究に対する批判的考察力	研究課題に直接対応した主要な先行研究を主体的かつ積極的に特定し、その先行研究の論点に対する自身の考察を論理的にかつ建設的な批判を組み込んで構成し説明することができる。	研究課題に直接対応した主要な先行研究をおおむね主体的かつ積極的に特定し、一部の論点には対応することができていないが大半の論点に対する自身の考察を論理的にかつ建設的な批判を組み込んで構成し説明することができる。	研究課題に直接対応した主要な先行研究を指導教員等に依存しつつ消極的ながらも特定し、一部の論点には対応することができておらず考察の論理性や建設的批判の不十分さは見受けられるが大半の論点に対する自身の考察を構成し説明することができる。	研究課題に直接対応した主要な先行研究を特定することができてはいないがその候補となる研究を洗い出すことはできており、自身の考察を構成し説明しようとする意図は見受けられる。	研究課題に直接対応した主要な先行研究を特定しようとする意図および自身の考察を構成し説明しようとする意図が見受けられない。
（3）授業運営へ主体的に関与し、学生同士が学び合い支え合う環境づくりに携わることができる。	主体性	ゼミ生の議論・相互批判により研究を高め合う志向のもとに、積極的に発言し、おおむね的確かつ建設的な質疑応答を行っている。	ゼミ生の発表を傾聴した上で主体的に発言し、おおむね的確な質問・回答を行っている。	ゼミ生の発表を傾聴し、指導教員に促されて発言し、消極的ながらも質疑応答を行っている。	発言は乏しいが、受けた質問に対してはおおむね回答することができる。	演習の意味を理解しておらず、主体性がなく、質疑応答を行おうとする姿勢が見られない。
	コミュニケーション力	他のゼミ生の意見・立場を尊重し、自分の役割も意識しながら、進んで交流・協力することで良好な人間関係を形成し、ゼミナールの円滑な運営および活動の活性化に著しく貢献している。	他のゼミ生の意見・立場を尊重しながら交流を深め、協力的な態度を維持し、ゼミナールの円滑な運営および活動の活性化に貢献している。	ゼミ生同士で交流し、必要な場面では協力することができ、ゼミナールの円滑な運営および活動の活性化に貢献しようとしている。	ゼミ生同士の交流・協力の必要性は一応理解し、ゼミナールの運営・諸活動に最低限参加している。	他のゼミ生との交流・協力の必要性を理解しておらず、ゼミナールの運営および活動にも参加していない。

常磐大学 人間科学部教育学科 成績評価基準・評価指標（ルーブリック）

「卒業論文Ⅰ」

評定	S	A	B	C	D
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点
GP	4	3	2	1	0

到達目標	評価項目	評価基準				
		授業内容の習熟を超えたレベルに達成している（S）	授業内容の習熟を達成している（A）	授業内容の習熟と到達目標の間にあるレベルを達成している（B）	到達目標を達成している（C）	到達目標を達成できていない（D）
（1）卒業論文の執筆のための構想および計画を立案し、継続的に改善を進めて完成させることができる。	構想力・構成本力	明確な研究目的のもと、研究目的に対応した研究方法が構想され、論理的に構造化された卒業論文の章構成が十分に立案できている。	明確な研究目的のもと、研究目的に対応した研究方法が構想され、論理的に構造化された卒業論文の章構成がおおむね立案できている。	研究目的と研究方法が構想されており、卒業論文の章構成が立案できている。	おおよその研究目的と研究方法が構想されており、論理構造に課題はあるものの卒業論文の章構成が立案されている。	研究目的や方法が構想されておらず、卒業論文の章構成も構想できていない。
	計画性	具体的で実現可能な執筆計画を立案できている、かつ計画改善のプロセスも想定できている。	具体的な執筆計画を立案できている。	執筆計画をおおよそ立案できている。	十分練られておらず、修正の余地は残るが、執筆計画を一応見通せている。	執筆計画が立案できていない。
（2）研究課題に取り組むための様々な先行研究を分析するとともに、必要に応じて適切な調査を企画・実施することができる。	先行研究・資料の分析力	研究課題に直接対応した質・量ともに十分な先行研究の収集・分析を行い、現時点で不足している情報や資料を明確に認識し、追加に必要な情報や資料の収集・分析の見通しを持っている。	研究課題に直接対応した質・量ともに十分な先行研究の収集・分析を行っており、現時点で不足している情報や資料をおおよそ認識している。	質または量に若干の課題はあるものの、研究課題に直接対応した先行研究の収集・分析ができており、研究課題に取り組むための手がかりが得られている。	質または量に課題はあるものの、研究課題に関連する先行研究の収集・分析ができており、研究課題に取り組むための最低限の手がかりが得られている。	わずかな量の先行研究の収集・分析しかできておらず（またはまったくできておらず）、研究課題に取り組むための手がかりが得られていない。
	調査遂行能力	調査が必要な場合に、確実に遂行可能な調査計画を立案または既に実施できている。	調査が必要な場合に、遂行可能性の高い調査計画を立案できている。	調査が必要な場合に、具体的な調査計画を構想できている。	調査が必要な場合に、おおよその調査の方向性を構想できている。	調査が必要かどうかの検討ができていない。
（3）授業運営へ主体的に関与し、学生同士が学び合い支え合う環境づくりに携わることができる。	主体性	ゼミ生の議論・相互批判により研究を高め合う志向のもとに、積極的・主体的に発言し、毎回の確かつ建設的な質疑応答を行っている。	ゼミ生の発表を傾聴した上で主体的に発言し、おおむね的確な質問・回答を行っている。	ゼミ生の発表を傾聴し、指導教員に促されて発言し、消極的ながらも質疑応答を行っている。	発言は乏しいが、受けた質問に対してはおおむね回答することができる。	演習の意味を理解しておらず、主体性がなく、質疑応答を行おうとする姿勢が見られない。
	コミュニケーション力	他のゼミ生の意見・立場を尊重し、自分の役割も意識しながら、進んで交流・協力することで良好な人間関係を形成し、ゼミナールの円滑な運営および活動の活性化に著しく貢献している。	他のゼミ生の意見・立場を尊重しながら交流を深め、協力的な態度を維持し、ゼミナールの円滑な運営および活動の活性化に貢献している。	ゼミ生同士で交流し、必要な場面では協力することができ、ゼミナールの円滑な運営および活動の活性化に貢献しようと努めている。	ゼミ生同士の交流・協力の必要性は一応理解し、ゼミナールの運営・諸活動に最低限参加している。	他のゼミ生との交流・協力の必要性を理解しておらず、ゼミナールの運営および活動にも参加していない。

常磐大学 人間科学部教育学科 成績評価基準・評価指標（ルーブリック）

「卒業論文Ⅱ」

評定	S	A	B	C	D
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点
GP	4	3	2	1	0

到達目標	評価項目	評価基準				
		授業内容の習熟を超えたレベルに達成している（S）	授業内容の習熟を達成している（A）	授業内容の習熟と到達目標の間にあるレベルを達成している（B）	到達目標を達成している（C）	到達目標を達成できていない（D）
（1）新規性・独自性および客観性・正確性が反映された卒業論文を執筆することができる。	独創性・新規性	課題の解明に適切な資料・データを客観的かつ正確に分析し、論理的で深い考察に基づき新規性・独自性のある論点を明瞭に打ち出している。	資料・データを客観的に分析し、論理的考察に基づき、独自性のある論点を打ち出している。	資料・データ分析の客観性・正確性に難があるが、自身の論点を見出ししている。	資料・データ分析や論理的考察が不十分であるが、自身の論点を打ち出す意志は確認できる。	資料・データが著しく不足し、分析・論理的考察がなされておらず、自身の論点をまったく持つことができていない。
	論述力	質・量ともに十分かつ論理的で整序された叙述を行い、研究倫理を踏まえて体裁・書式が完全に整った論文を作成している。	質・量ともに十分でわかりやすい叙述を行い、研究倫理を踏まえて体裁・書式の整った論文を作成している。	規定分量を越えており、論理的ではないが、自身の主張をおおむね伝えられる論文を作成し、体裁・書式もある程度整っている。	規定分量を越えており、稚拙ではあるが、自身の主張を文章で表現しようと努めている。ただし、体裁・書式が整っていない。	分量が大きく不足し、論文といえる内容・体裁の文章が書けていない。
（2）卒業研究の成果について、卒業論文要旨その他の資料をもとに分かりやすく適切に説明することができる。	表現力	論文の構成を一目で把握でき、研究の目的・手法・成果・意義をわかりやすく伝える工夫が凝らされた要旨・発表資料を作成できる。	論文の構成や研究の目的・手法・成果・意義を正確に伝える要旨・発表資料を作成できる。	表現方法に工夫の余地が残るが、論文の構成や研究の目的・手法・成果・意義をおおむね伝える要旨・発表資料を作成できる。	不十分な面が多いが、論文内容が推察できる程度の要旨・発表資料を作成できる。	要旨・発表資料を作成することができない。
	説明力	原稿に頼らず、論文の内容を平易かつ明確に説明するアピール力があり、聴衆をひきつけ、納得させている。また、質問にも的確に答え、議論を発展させることができる。	とどころ原稿に頼っているが、論文の内容を自分の言葉で正確に説明し、聴衆を納得させている。また、質問に丁寧に回答することができる。	発表方法に稚拙さは残るが、論文の内容をおおむね正確に伝えることができる。また、質問におおむね回答することができる。	原稿を読み上げる形ではあるが、論文の内容を一応説明することができる。質問に対する回答はやや的外れている。ただし、自分の主張を人前で説明することの重要性は認識している。	自身が論文の概要・論点を十分理解しておらず、発表が成り立たない。
（3）授業運営へ主体的に関与し、学生同士が学び合い支え合う環境づくりに携わることができる。	主体性	ゼミ生の議論・相互批判により研究を高め合う志向のもとに、積極的・主体的に発言し、毎回の確かつ建設的な質疑応答を行っている。	ゼミ生の発表を傾聴した上で主体的に発言し、おおむね的確な質問・回答を行っている。	ゼミ生の発表を傾聴し、指導教員に促されて発言し、消極的ながらも質疑応答を行っている。	発言は乏しいが、受けた質問に対してはおおむね回答することができる。	演習の意味を理解しておらず、主体性がなく、質疑応答を行おうとする姿勢が見られない。
	コミュニケーション力	他のゼミ生の意見・立場を尊重し、自分の役割も意識しながら、進んで交流・協力することで良好な人間関係を形成し、ゼミナールの円滑な運営および活動の活性化に著しく貢献している。	他のゼミ生の意見・立場を尊重しながら交流を深め、協力的な態度を維持し、ゼミナールの円滑な運営および活動の活性化に貢献している。	ゼミ生同士で交流し、必要な場面では協力することができ、ゼミナールの円滑な運営および活動の活性化に貢献しようと努めている。	ゼミ生同士の交流・協力の必要性は一応理解し、ゼミナールの運営・諸活動に最低限参加している。	他のゼミ生との交流・協力の必要性を理解しておらず、ゼミナールの運営および活動にも参加していない。